

REALLY DELUXE BUS

日本で入念なレストアを受けた 希少な23ウィンドウ・デラックス

豊富なバリエーションを誇るタイプ2の中でも、最も窓が多く、最も開放的で、最もラグジュアリーなのが23ウィンドウ。世界的な人気と反比例するように、グッドコンディションの個体と出会うのは年々難しくなっている。

Text_Jun Ishihara Photo_Kiyoshi Wada
Special Thanks to TOA INTERNATIONAL Phone_045-501-0797 <https://www.toajp.com/>



上_年式オリジナルのステアリングをレストア。パッセンジャーシートに備わっているオリジナルの時計も貴重なパーツ。下_エンジンはオリジナルの1200ccから、1600ccのデュアルポートエンジンに変更。40HPから50HPへとパワーアップされている。



1962
Type 2 23 Window Deluxe

元祖トランスポルターであるVWタイプ2は1950年2月にリリースされた。VWビートルのエンジン、足周りに四角いボディを被せた構造を元に、多用途モデルとしてベストセラーとなり、デリバリーバンから始まってその後アンビュランス=救急車、ピックアップ、キャンパー、マイクロバスと、6種類のバリエーションが展開された。

その中でも、最も多くの窓を持つ23ウィンドウモデルは人気のモデルと言っているだろう。まるでスカイウィンドウのような開放感のある車内は、所有したオーナーでないと体感できない爽快な空間である。リアのコーナーにウィンドウを設け、左右8か所にスカイルーフが設けられた23ウィンドウは、1963年式型が最終モデルとなり、翌年から21ウィンドウに変更されていることから、世界中のVWフリークたちから希少車として注目とリスペクトを集めている。撮影車は日本国内で所有してい

たオーナーが手放すことになり、『トーアインターナショナル』にてレストアされた1962年式デラックスモデルで、ウォークスルーの珍しい個体である。

ボディはL325マウスグレーとL87パールホワイトにてオールペイント。この組み合わせは当時のファクトリーモデルの純正色で選ばれた。インテリアはモヘアのヘッドライナーで張り替えられ、内装もバサルトグレーで張り替えて美しく仕上げられている。注目すべきは、当時のジェイルバーやボディモール、コートフックなどが全て残されていることだ。ほとんどのクルマはリプロパーツでレストアされているものだが、このデラックスバスには純正パーツが残されているのだ。

また開口部の大きいスライディンググループがあるため、ボディ剛性を出すためにベリバンというパーツで床下が補強されている。当時ベリバンが与えられたタイプ

2は、23ウィンドウと21ウィンドウ、それに両ドアのパネルバンモデルのみ。エンジンは1600ccのデュアルポート仕様に変更されて現代の交通事情に合わせられた。パーツチョイスでオリジナル度が大きく変わってしまうのがレストアプロジェクトというものだが、経験と実績のある『トーアインターナショナル』にて入念な作業が行なわれ、約3年かけて仕上がった。

ラグトップを開けたときに受ける爽やかな風と圧倒的な開放感は、23ウィンドウのラグトップモデルだけが持つ喜びと言っているだろう。各所に奢られたモールも、デラックスならではの高級感をもたらしてくれて、人気があるのも納得できる。今、VWバスをはじめ年式の古いモデルの相場が、クラシックカーとして世界的に高騰している。タイミングよく良いクルマに出会うのも、運次第、あるいは人生の巡りあわせといえるかもしれない。



23ウィンドウ×ラグトップの圧倒的な開放感

1962
Type 2 23 Window Deluxe

REALLY DELUXE BUS



1_ルーフトップを開けるとまさにスカイルーフ。2_当時オプションのサファリウィンドウはアフターマーケットパーツで再現。3_左右天井のウィンドウは貴重なパーツ。4_モールディングもオリジナルを装着。コーナーウィンドウやジェイルバーも貴重なパーツだ。5_張り替えられたキャンバストップはスムーズに開閉。6_ドアはウィンテージドアパネルセットで張り替えモールも復元。7_3列シートでウォークスルーは希少なタイプ。8_欠品していることが多いコートフックは全てオリジナル。9_ベリバンと呼ばれるボディ補強パーツ。10_ホイールはオリジナルの15インチをレストア。

